

九州大学新聞

<https://hdl.handle.net/2324/1520803>

出版情報：九州大学新聞. 620, 1970-11-15. 九州大学新聞部
バージョン：
権利関係：



発行所 福岡市東区... 電話(64)1101

広告のため非表示

社会科学系教官公開糾弾集会 無意識下の差別性を告発

部落差別者を生み出す大学

十一月十五日午後二時、九州大学社会科学系教官公開糾弾集会が開かれた。...

糾弾集会の目的は、社会科学系教官の無意識下の差別性を告発し、部落差別者を生み出す大学を批判することにある。...

糾弾集会には、社会科学系教官の代表者として、社会科学系長、社会科学部部長、社会科学系各学部長などが出席した。...

糾弾集会は、社会科学系教官の無意識下の差別性を告発し、部落差別者を生み出す大学を批判することにある。...

糾弾集会は、社会科学系教官の無意識下の差別性を告発し、部落差別者を生み出す大学を批判することにある。...

糾弾集会は、社会科学系教官の無意識下の差別性を告発し、部落差別者を生み出す大学を批判することにある。...

糾弾集会は、社会科学系教官の無意識下の差別性を告発し、部落差別者を生み出す大学を批判することにある。...

糾弾集会は、社会科学系教官の無意識下の差別性を告発し、部落差別者を生み出す大学を批判することにある。...

糾弾集会は、社会科学系教官の無意識下の差別性を告発し、部落差別者を生み出す大学を批判することにある。...

糾弾集会は、社会科学系教官の無意識下の差別性を告発し、部落差別者を生み出す大学を批判することにある。...

糾弾集会は、社会科学系教官の無意識下の差別性を告発し、部落差別者を生み出す大学を批判することにある。...

糾弾集会は、社会科学系教官の無意識下の差別性を告発し、部落差別者を生み出す大学を批判することにある。...

糾弾集会は、社会科学系教官の無意識下の差別性を告発し、部落差別者を生み出す大学を批判することにある。...

主な内容
▼連載手記: 一面
▼書評「民族と階級」: 二面

民青の武装襲撃粉砕 11・10 当局またも機動隊導入

十一月十日、民青の武装襲撃が粉砕された。当局はまたも機動隊を導入した。...

民青の武装襲撃は、十一月十日午後十時頃、福岡市東区で発生した。...

襲撃隊は、民青の武装勢力によって組織された。...

襲撃は、民青の武装勢力によって組織された。...

襲撃は、民青の武装勢力によって組織された。...

襲撃は、民青の武装勢力によって組織された。...



連載手記(4)

私はそうは思わない
「写真撮影」で 検事と問答

私はそうは思わない

「写真撮影」で 検事と問答

私はそうは思わない。これは、写真撮影に関する検事と問答の文章である。...

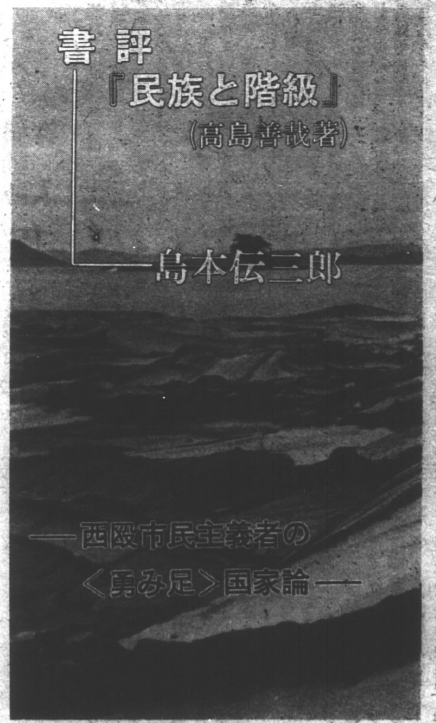
「東病棟」建設阻止 機動隊 13名不当逮捕さる

十一月八日、東病棟の建設阻止運動で、機動隊13名が不当逮捕された。...

機動隊の導入は、建設阻止運動に対する当局の対応である。...

機動隊の導入は、建設阻止運動に対する当局の対応である。...

機動隊の導入は、建設阻止運動に対する当局の対応である。...



書評

『民族と階級』 (高島善哉著)

— 鳥本伝三郎 —

— 西園市民権論者の『異歩』 —

I 序

「民族と階級」は、高島善哉氏の著した『異歩』の続編である。『異歩』は、戦前戦中を通じて、高島氏が社会主義的立場から、国家論、民族論、階級論を論じた著作である。本書は、『異歩』の論議を更に発展させ、戦後民主主義の発展と、民族と階級の関係を論じている。高島氏は、戦後の日本社会が、戦前の国家主義から、民主主義へと変化したように、民族と階級の問題も、戦前の国家主義から、戦後の民主主義へと変化したと主張している。本書は、高島氏の戦後思想の発展を、民族と階級の問題を通じて論じている。高島氏は、戦後の日本社会が、戦前の国家主義から、民主主義へと変化したように、民族と階級の問題も、戦前の国家主義から、戦後の民主主義へと変化したと主張している。本書は、高島氏の戦後思想の発展を、民族と階級の問題を通じて論じている。

「民族と階級」は、高島善哉氏の著した『異歩』の続編である。『異歩』は、戦前戦中を通じて、高島氏が社会主義的立場から、国家論、民族論、階級論を論じた著作である。本書は、『異歩』の論議を更に発展させ、戦後民主主義の発展と、民族と階級の関係を論じている。高島氏は、戦後の日本社会が、戦前の国家主義から、民主主義へと変化したように、民族と階級の問題も、戦前の国家主義から、戦後の民主主義へと変化したと主張している。本書は、高島氏の戦後思想の発展を、民族と階級の問題を通じて論じている。高島氏は、戦後の日本社会が、戦前の国家主義から、民主主義へと変化したように、民族と階級の問題も、戦前の国家主義から、戦後の民主主義へと変化したと主張している。本書は、高島氏の戦後思想の発展を、民族と階級の問題を通じて論じている。

II 理論的陥穽

「民族と階級」は、高島善哉氏の著した『異歩』の続編である。『異歩』は、戦前戦中を通じて、高島氏が社会主義的立場から、国家論、民族論、階級論を論じた著作である。本書は、『異歩』の論議を更に発展させ、戦後民主主義の発展と、民族と階級の関係を論じている。高島氏は、戦後の日本社会が、戦前の国家主義から、民主主義へと変化したように、民族と階級の問題も、戦前の国家主義から、戦後の民主主義へと変化したと主張している。本書は、高島氏の戦後思想の発展を、民族と階級の問題を通じて論じている。高島氏は、戦後の日本社会が、戦前の国家主義から、民主主義へと変化したように、民族と階級の問題も、戦前の国家主義から、戦後の民主主義へと変化したと主張している。本書は、高島氏の戦後思想の発展を、民族と階級の問題を通じて論じている。

III 既成民族・国家理論 にかゝる態度

「民族と階級」は、高島善哉氏の著した『異歩』の続編である。『異歩』は、戦前戦中を通じて、高島氏が社会主義的立場から、国家論、民族論、階級論を論じた著作である。本書は、『異歩』の論議を更に発展させ、戦後民主主義の発展と、民族と階級の関係を論じている。高島氏は、戦後の日本社会が、戦前の国家主義から、民主主義へと変化したように、民族と階級の問題も、戦前の国家主義から、戦後の民主主義へと変化したと主張している。本書は、高島氏の戦後思想の発展を、民族と階級の問題を通じて論じている。高島氏は、戦後の日本社会が、戦前の国家主義から、民主主義へと変化したように、民族と階級の問題も、戦前の国家主義から、戦後の民主主義へと変化したと主張している。本書は、高島氏の戦後思想の発展を、民族と階級の問題を通じて論じている。

IV 国家論の区別と整理

「民族と階級」は、高島善哉氏の著した『異歩』の続編である。『異歩』は、戦前戦中を通じて、高島氏が社会主義的立場から、国家論、民族論、階級論を論じた著作である。本書は、『異歩』の論議を更に発展させ、戦後民主主義の発展と、民族と階級の関係を論じている。高島氏は、戦後の日本社会が、戦前の国家主義から、民主主義へと変化したように、民族と階級の問題も、戦前の国家主義から、戦後の民主主義へと変化したと主張している。本書は、高島氏の戦後思想の発展を、民族と階級の問題を通じて論じている。高島氏は、戦後の日本社会が、戦前の国家主義から、民主主義へと変化したように、民族と階級の問題も、戦前の国家主義から、戦後の民主主義へと変化したと主張している。本書は、高島氏の戦後思想の発展を、民族と階級の問題を通じて論じている。

「民族と階級」は、高島善哉氏の著した『異歩』の続編である。『異歩』は、戦前戦中を通じて、高島氏が社会主義的立場から、国家論、民族論、階級論を論じた著作である。本書は、『異歩』の論議を更に発展させ、戦後民主主義の発展と、民族と階級の関係を論じている。高島氏は、戦後の日本社会が、戦前の国家主義から、民主主義へと変化したように、民族と階級の問題も、戦前の国家主義から、戦後の民主主義へと変化したと主張している。本書は、高島氏の戦後思想の発展を、民族と階級の問題を通じて論じている。高島氏は、戦後の日本社会が、戦前の国家主義から、民主主義へと変化したように、民族と階級の問題も、戦前の国家主義から、戦後の民主主義へと変化したと主張している。本書は、高島氏の戦後思想の発展を、民族と階級の問題を通じて論じている。

広告のため非表示